



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



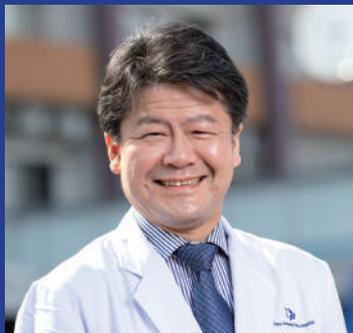
おおきに健康

歯とお口から

大阪大学歯学部附属病院 広報誌

Vol.40
2024年秋号

News
Letter



副病院長 鷓澤 成一

こんにちは。当院の広報誌をご覧ください。誠にありがとうございます。

歯学部附属病院では、患者さんの健康と笑顔を守るために、日々最善の医療を提供することを目指しております。私たちは、患者さんの個々のニーズに応じた診療を提供し、皆さまが安心して治療を受けられる環境づくりに努めています。

しかしながら、医療には多くの不確実性が伴います。同じ症状や病状でも、患者さんの体質や生活環境によって治療の結果が異なることがあります。さらに、治療中に新たな問題が発生する場合があります。これらは医療が持つ複雑さや限界によるものであり、すべての治療が予測通りに進むわけではありません。

当院では、このような医療の不確実性を正直にお伝えし、患者さんと共に最善の治療法を模索していくことを大切にしています。治療に関するご不安やご質問がございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。私たちは常に患者さんの立場に立ち、一緒に問題を解決していきたいと考えています。

歯学部附属病院のスタッフ一同、皆さまのご健康と笑顔のために全力でサポートいたします。よろしくお願い申し上げます。

トピックス

● 特集 1. DX シリーズNo.1

歯科医療および歯科技工に変革をもたらすデジタル技術

● 特集 2.

当院における海外歯学部学生の短期研修のご紹介

お口の相談コーナー お口のマメ知識

- ◆ 2024年7～9月の統計情報
- ◆ 病院概要



技工室 常藤 洋平

近年、さまざまな分野でデジタル化が進行しており、歯科医療の分野もその例外ではありません。デジタル化によって、従来の業務プロセスをデジタル技術の活用により抜本的に改善し、患者さん・医療従事者双方にとって有益な変革をもたらしつつあります。今回は、当院でどのようにデジタル化が進行しているのかを歯科技工士の立場からご紹介します。

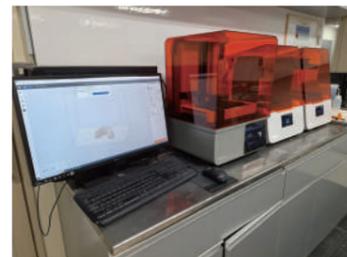
まず、皆さんは歯科技工士という職業をご存知でしょうか？ 歯科技工士は歯科医師がとった歯型をもとに、入れ歯、歯の被せ物、歯の詰め物などの補綴装置を製作する国家資格を持った医療技術専門職で、歯科医療の一端を担っています。当院では9名の職員が補綴装置の製作や加工、修理などを行っています。

次に歯科治療でのデジタル技術のお話です。1つ目は歯科医師によっておこなわれるデジタルスキャニングについて説明します。これまでは、虫歯の治療で患者さんの歯型を取る際にシリコーンゴムなどの型取り材料を使用していましたが、専用のデジタルスキャナーで口腔内を直接スキャンすることで3Dデータを取得できるようになりました。これにより不快な型取り材料の使用を避けることができるだけでなく、精度の高い口腔内のデータの取得と我々歯科技工士とのデータの共有が容易となり、補綴装置の品質が向上しています。2つ目は患者さんの口腔内から得られたデジタルデータを活用して歯科技工士が製作する補綴

装置についてです。これまでの補綴装置は型取りをして作った石膏の模型の上で製作していましたが、現在では、コンピュータ画面上で補綴装置をデザインしてデータ化し、それをもとに専用の機械で樹脂のブロックなどを切削して製作します。この補綴装置をCAD/CAM冠といい、レジン冠(保険)やジルコニア冠(自費)などに用いられています。CAD(Computer Aided Design)とはコンピュータ支援による設計、CAM(Computer Aided Manufacturing)とはコンピュータ支援による製造を意味します。CAD/CAMを使用して製作する補綴装置は、従来の手作業よりも正確に製作できるだけでなく、完成までの時間が大幅に短縮され、品質の安定した「白い歯」を提供できるようになりました。

さらに当院では、患者さんのレントゲンの画像データから3Dプリンターを使用して顎骨モデルの製作や、口腔腫瘍を切除する手術を正確に行うための補助器具の製作を我々歯科技工士が担っており、手術精度の向上、手術時間の短縮や術後の生活の質の向上に寄与しています。

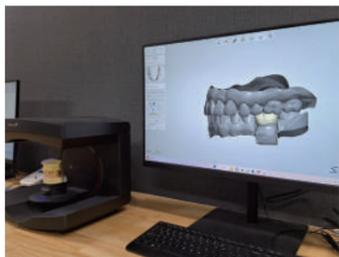
このように歯科治療および歯科技工のデジタル化は、患者さんにとっても医療従事者にとっても大きな恩恵をもたらします。今後、より一層のデジタル技術の進化により精密で迅速な治療が可能となり、歯科医療の質がますます向上すると考えられます。



3Dプリンター



CAD・CAM室



CADによる設計



技工室長と職員

ISWプログラム統括責任者 歯学研究科副研究科長 加藤 隆史

大阪大学歯学研究科・歯学部附属病院では、国際交流活動の一環として「International Student Week (ISW)」という、大阪大学歯学部独自の短期研修プログラムを実施しています。このプログラムは、海外の大学の歯学部の学生を受け入れるもので、年間約6回実施しています。主に歯学研究科と部局間学術交流協定を締結している大学の学生が参加しています。

ISWプログラムに参加する学生たちは、歯学研究科の教員から最新の研究についての講義を受けたり、歯学部附属病院の診療科医師の指導のもとで外来診療を見学したり、症例ディスカッションに参加することができます。また、研修期間中には研究科長とのランチや、学生歓迎会などのイベントも開催され、本学の教員や学生との親睦を深める機会を持つことができます。このようなイベントを通じて、参加学生は異なる文化や歯科教育の違いを経験し、国際交流の意義を深く理解することができます。

ISWプログラムは2008年にスタートし、これまでに14カ国27大学から330名を超える学生たちが参加してきました。コロナ禍の間は、一時期オンラインでの実施となりましたが、昨年から対面での研修を再開することができました。

このプログラムに参加した学生からは、貴重な体験と交流の

機会を得ることができた、先進技術の歯科医療への活用に感銘を受けた、異なる歯科教育に興味を持った、充実した研修を通じて新たな発見や学びを得ることができたなど、多くの感想と感謝のことが寄せられています。

2024年度はすでにタイ、台湾、英国より学生を受け入れており、今年度後半には、マレーシア、インドネシア、中国の学生の受け入れを予定しております。

大阪大学歯学研究科・歯学部附属病院は、アジアをリードする歯科医療拠点として、今後もISWプログラムを継続・発展させ、国際歯科医療への貢献を目指しています。



研修の様子(7/29~8/2 国立台湾大学 ニューカッスル大学)

第21回市民フォーラム 「口のサイエンスの最新事情」開催

日時：2024年11月2日(土) 13:00~16:00 場所：千里ライフサイエンスセンター 5階サイエンスホール

「むし歯予防のサイエンス最新情報」

久保庭 雅恵 大阪大学大学院歯学研究科 予防歯科学講座 教授

「歯の神経(歯髄)を守り、歯を守ろう」

高橋 雄介 大阪大学大学院歯学研究科 歯科保存学講座 講師

「『二刀流』で解明する口と肺炎の関係」

山口 雅也 大阪大学大学院歯学研究科 バイオインフォマティクス研究ユニット 准教授

「『美味しい・まずい』は体からのシグナル」

乾 千珠子 大阪大学大学院歯学研究科 組織・発生生物学講座 助教

「一般診療所でのリアル〜歯周病治療とインプラント治療の最前線から〜」

米田 晋也 大阪大学歯学部同窓会 りょうき歯科クリニック 院長

当日の参加受付いたします。

興味のある方は是非お越しください。お待ちしております！



●お問合せ先

第21回市民フォーラム事務局

Email: pf-sanka@mll.dent.osaka-u.ac.jp

子供の矯正歯科治療：いつ始めるのがベスト？

矯正科 岡 綾香

お口の相談コーナー



「子供の歯並びが気になるけれど、いつから矯正治療を始めたいの？」と悩む親御さんは多いことでしょう。子供の矯正歯科治療を始める適切な時期は、個々の成長発達や歯並びの状態により異なるため、一概には言えません。今回は、一般的に矯正歯科治療を開始する二つのタイミングとその内容を簡単にご紹介します。

早期治療(第1期治療)：

早期治療は、上の前歯が生え変わった頃、7歳から11歳頃に行われることが多いです。この段階の治療の目的は、顎の成長を誘導し、永久歯が正しく生えるようにすること。いわば、将来的に本格的な矯正治療がスムーズに進むような土台作りです。



第1期治療で使用される様々な装置

本格的な矯正治療(第2期治療)：

本格的な矯正治療は、11歳から14歳以降に行われます。この時期には、ほとんどの永久歯が生え揃っているため、ブレース(矯正器具)やアライナーを使って全体の歯並びや噛み合わせを調整します。この治療により、美しい歯並びと正しい噛み合わせを実現できます。



第2期治療で使用されるブレースやアライナー

まとめ

早期治療を受けることで、将来的に必要な治療が簡単になる場合があります。しかし、逆に本格的な矯正治療から始める方が良い場合もあります。お子さんの歯並びが気になる場合は、まず矯正歯科医に相談し、個々の状況に最適な治療計画を立てることが大切です。お子さんの明るい笑顔のために、専門医への相談と適切なタイミングでの治療を心がけましょう。本記事が少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

お口のマメ知識



歯がしみる原因は「象牙質知覚過敏症」かも？

保存科 大嶋 淳

冷たい飲み物やアイスクリームを口に含んだとき、歯がキーンとしみる経験はありませんか？このような症状は「象牙質知覚過敏症」である可能性があり、歯の内部にある象牙質が外部の刺激に過敏に反応してしまうことが原因です。歯の表面は硬いエナメル質で覆われていますが、エナメル質がすり減ったり、歯ぐきが下がったりして象牙質が露出すると、そこにある細かな管を通して神経に刺激が伝わりやすくなります。これが、「しみる」感覚の正体です。

では、なぜ象牙質知覚過敏症が起こるのでしょうか？主な原因として、強く歯を磨きすぎることや、

酸性の食品や飲料を頻繁に摂取することが挙げられます。また、歯ぎしりや食いしばりもエナメル質をすり減らし、象牙質を露出させる一因となります。

症状を予防するためには、やさしいブラッシングを心がけることが大切です。また、知覚過敏用の歯磨き粉を使うことで症状がやわらぎ、酸性の食品や飲料を控えることも有効です。それでも症状が続く場合は治療が必要になることがあります。歯科医は、象牙質を保護するための特殊なコーティングなどの治療を提案してくれます。

注意すべきは、むし歯(う蝕)でも同様の症状が現れることです。

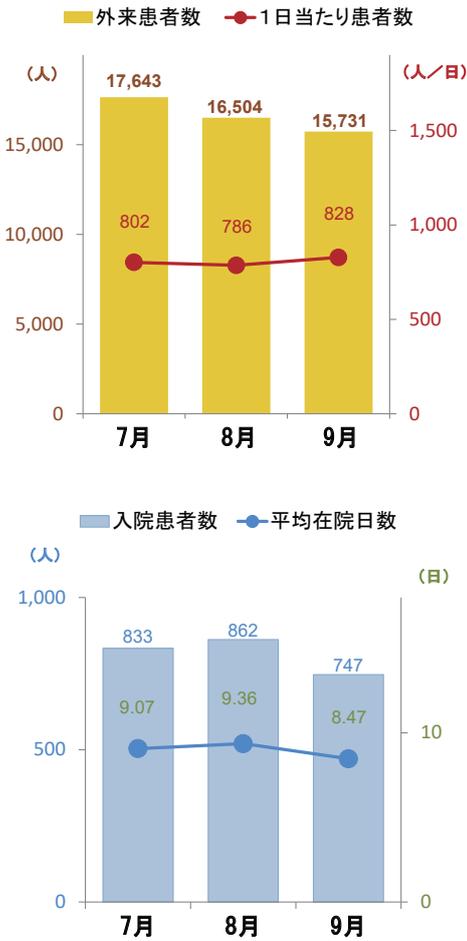
う蝕が進行すると歯に穴が開き、神経に直接刺激が伝わることで歯がしみる感覚が生じます。長くしみる症状が続く場合は単なる知覚過敏だと思わず、早めに歯科医に相談することをおすすめします。早期の対処が、日常生活の快適さを取り戻す鍵です。



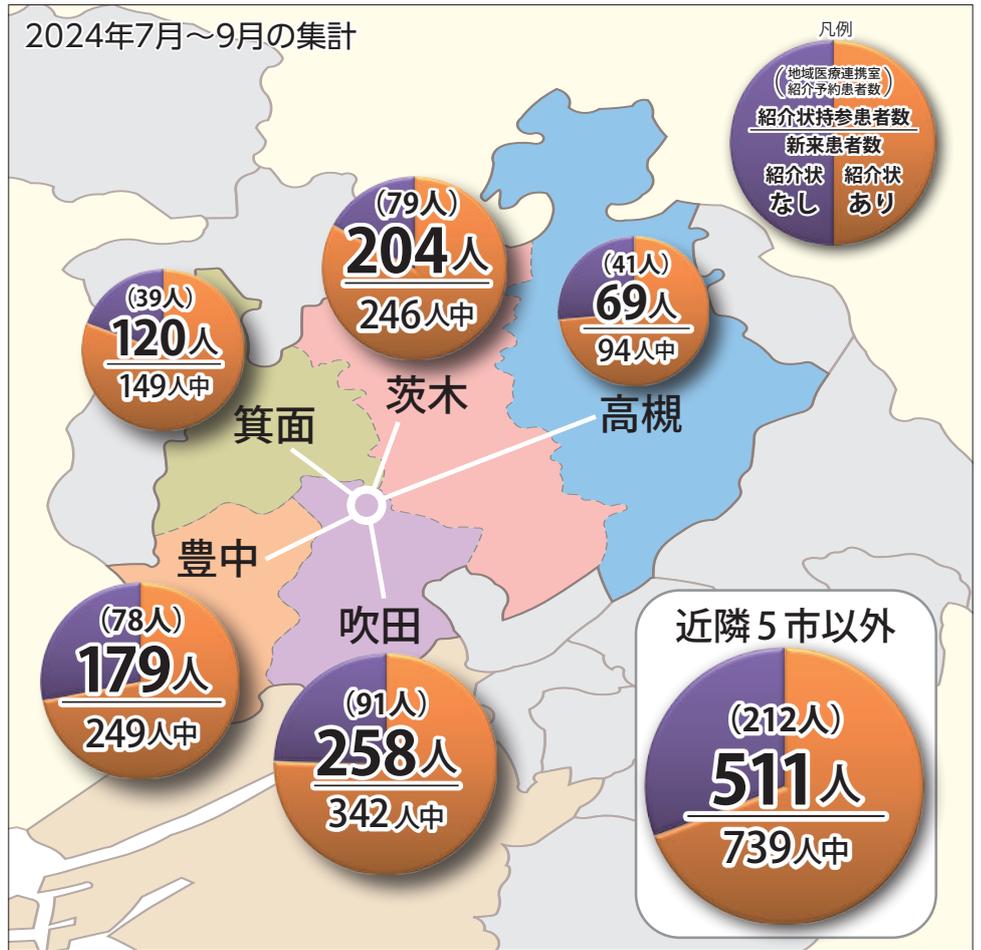
歯肉の退縮と歯ぐきとの境目のすり減り(摩耗)

7月～9月患者数等統計

外来患者数・入院患者数



近隣5市の新来患者に占める紹介状持参患者数



病院概要



診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）
 【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

対象：予防歯科、う蝕（虫歯）、歯周病、補綴（冠、義歯、インプラント）、歯列不正、
 口腔がん、口唇口蓋裂、障害者歯科、摂食・嚥下・発音障害、スポーツ歯科、口臭、
 ドライマウス、睡眠時無呼吸、歯の外傷等

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話（06-6879-2848）のうえ、お越しください。

入院患者様へのご面会は新型コロナウイルス感染対策の観点から制限を設けています。詳しくは病院ホームページをご確認ください。

病院へのアクセス



歯学部附属病院にお車でお越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しください。

看護師・歯科衛生士募集中！

—お問合せ—

歯学研究科総務課人事係
 06-6879-2834 まで